1Tp-4

高齢者の精神的充足感形成に関する研究Ⅱ

－高齢者の精神的充足感形成に関する家族役割の検討－

広島大教育　○原田圭子　岡本祐子

【目的】研究Ⅰの内容をさらに発展させるため，研究Ⅱでは高齢者の精神的充足感に影響を与えると考えられる家族関係に焦点化し，高齢者の精神的充足感獲得に関わる家族関係要因を分析する。特に，家族による高齢者の「老い」の受容度及び家族内コミュニケーションの内容と程度と高齢者の精神的充足感との関連性について考察することを目的とした。

【方法】(1)調査対象者：広島県在住の高齢者(60名)及び高齢者と同居する家族員(75名)
(2)手続き：次の内容からなる質問紙調査を実施した。高齢者対象：精神的充足感スケール（岡本1987，1994），筆者作成の家族内コミュニケーションの内容と程度に関する投影法検査など。家族員対象：「老い」の受容度，「老い」の受容に関わる家族要因に関する項目（親の人生評価，自分の人生評価など），「老い」のとらえ方等に関するＳＣＴ刺激項目，家族内コミュニケーションの内容と程度に関する投影法検査など。

【結果】高齢者の精神的充足感の実態については，研究Ⅰの結果と比較して，全体的に精神的充足感の高い対象者群であった。高齢者の「老い」の受容度の高い家族では，高齢者の精神的充足感が高い傾向が見られた。また，「老い」の受容度の高い家族は，受容度の低い家族よりも「高齢者の人生評価」，「自らの人生評価」，及び「老後の準備」において有意に高い得点を示した。また高受容群の特徴としては，「老い」を自然なものとして肯定的，楽観的にとらえていること，また，自らの人生にある程度満足感を持ち将来の人生についても明るい見通しを持っていることがあげられた。家族内コミュニケーションの内容と程度と高齢者の精神的充足感との間には直接的には関連性が見られなかった。